

イーマ第67回 丹羽正幸先生 講演録 2006.1.26

講師 丹羽 正幸 先生 (丹羽クリニック院長)
議題 「今、オーダーメイド医療が求められている」

丹羽先生は西洋医学一辺倒の我国医療に対して改革を提唱し続け、実証に基づく (Evidence Based Medicine=EBM) 統合医療を実践する医師として我国の優れたリーダーであり、今日新宿区医師会において統合医療検討委員会が設けられ担当理事としてその普及に務めておられる。

先生は18歳の時から中国医療や中国人の考え方に関心を持たれ、それを元に以来35年間に渡り統合医療を研究、実践され、漢方、整体、温熱、アロマ、音楽療法等において独自の改良を加え今日に至っている。その為、丹羽クリニックはガンやリュウマチ、アレルギー、糖尿病、腰痛など現在西洋医学では難治な患者さん達の、知る人ぞ知る駆け込み寺的な存在として日夜治療に当たられている。

1 統合医療の世界的潮流

世界は今やグローバリズムの時代を迎え、米国、ヨーロッパをはじめとする先進国では西洋医学以外の代替医療が取り入れられているが、我国ではまだ健康保険制度の影響が強く、西洋医学以外は日陰の存在であり、もっと幅広く用いられる市場づくりが大いに求められている。諸外国の代替医療はそれぞれが専門職としてのタテ割となっており、相互の関連性が薄く、統合医療(身体を部分としてみるのではなく、丸ごと有機的な存在としてトータルに診る)が今日求められている。我国においては国民皆保険制度以前においては漢方、あんま、整骨と西洋医学と共に医師はうまく対応していたが、今日健康保険の適用が西洋医学中心のために、又臓器別、疾患別専門医ほど報酬に反映されるため、医師の関心もなかなか統合医療を学ぶ環境になかったとも言えるが、今後は賢い患者が増え、患者中心の医療が求められてきているので、統合医療が大いに期待される。

統合医療 (Holistic Medicine) とは西洋医学に含まれない医療領域である。相補・代替医療を現代西洋医療と効果的に組み合わせた医療を意味する。

代替医療 (Alternative Medicine) とは現代医学に替わる伝統的な医療やその他の近代医学に属さない様々な医療を総称した名称である。

別な言い方をすれば近代医学を補完する意味で相補医療 (Complementary Medicine) とも言われ総称して相補代替医療 (CAM) と呼ばれている。

表1 日本における一般的に統合医療として考えられている治療法

・中医学	・温熱	・断食
・漢方	・鍼灸	・座禅(瞑想)
・アーユルヴェーダ	・柔道整復	・気功
・ビタミン・ミネラル療法	・催眠療法	・内観療法
・ハーブ	・ダンス療法	・ホメオパシー
・アロマセラピー	・音楽療法	・カイロプラクティック
・薬草	・花療法	・オステオパシー など

米国の国立衛生局の相補・代替医療センター (National Center of Complementary and Alternative Medicine) は代替医療 (統合医療) を以下のように分類しています。

1. 代替医療システム (Alternative medical system) : アーユルヴェーダ (インド医学)、中医学、ホメオパシーなど
2. 精神・身体相互介入による医療 (Mind-Body intervention) : 催眠療法 音楽療法など
3. 生物学的療法 (Biologically based therapies) : 食事療法、ビタミン・ミネラル、ハーブなど
4. 手技および身体を介する療法 (Manipulative and body-based methods) マッサージ、カイロプラクティック、リフレクソロジーなど
5. エネルギー療法 (Energy therapies) : 磁気治療、気功など

表2 米国における統合医療の分類

米国では1992年に厚生省 (NIH) に CAM 調査室が国策として設けられ研究が進められ続けている。今日米国では42%の国民がCAMを利用している。一方、我国においては民間の諸団体がそれぞれにバラバラに研究に取り組んでおり、国として力を入れていない。しかし、国民はサプリメントも含め、約76%の人達が利用しているにもかかわらず、諸外国に比べて医師の関心は非常に低い。

2 丹羽式療法で効果をあげた疾患と診断方法・治療法

- (対象疾患)
- ・ 難治性アトピー性皮膚炎、気管支喘息
 - ・ 生活習慣病 (糖尿病、高血圧、高脂血症、肥満)
 - ・ 悪性腫瘍、白血病
 - ・ 急性気管支炎
 - ・ 筋骨格系疾患 (腰椎椎間板ヘルニア、変形性膝関節症、骨粗鬆症)
 - ・ 関節リウマチ
 - ・ 前立腺肥大
 - ・ 不妊症
 - ・ アルツハイマー病

- (診断法)
- ① 現代医学的診断を基本とする。
 - ② 漢方による診断により 体質改善を通じて治療効果を上げる。
 - ③ 身体の統合力の診断は 脳神経系、免疫系、内分泌系、内臓機能の病変、筋骨格系を独自の方法で診断する。
特に筋骨格系の診断を重視する。

- (治療法)
- ① 丹羽式正體術
 - ・ 解剖学に基づいた筋骨格系の治療法であり、免疫機能改善を目的としている。
その効果は
 - ・ 骨格の歪み・筋肉のねじれを正常に戻すことで運動機能が改善し、又 内臓機能も改善する。
 - ・ リンパ液・血液の循環を改善するいわゆる代謝改善療法であり、自律神経のバランスが整えられ、免疫機能が改善する。

② ビタミン・ミネラル療法

病気治療には良質のビタミン・ミネラルが不可欠であり、当院ではオーダーメイドの処方です。その人に合った独自のサプリメントを開発している。

③ 音楽免疫療法

聴覚を通じて自律神経を調整する。又 治療のみでなく、診断としても応用できる。

④ 温熱免疫療法

深部体温を上昇させることにより免疫機能の改善を行うと共に解毒作用を促す。一方、体毒は汗と共に皮膚から出すのが最善である。

3 各疾患別の統合医療の効果的な適用例

アトピー性皮膚炎:ステロイド外用剤に依存せず、自力で正常な皮膚を作る身体にする

＜アトピー性皮膚炎患者に共通する体の弱点＞

- | | |
|------------------|-----------|
| ・胃腸の消化吸収力が低い | 良い汗がかけない |
| 下痢・便秘・過敏性大腸炎 | 汗が出ない |
| 一行の便が出ない | 汗をかくと痒くなる |
| ・皮膚が薄い | |
| 生まれつき皮膚が薄い | 免疫に異常がある |
| 薬剤や誤ったスキンケアによる損傷 | 細胞性免疫異常 |
| | 体液性免疫異常 |
| ・身体に歪みがある | |
| 筋肉のねじれ・骨格の歪み | |
| 肩こり・腰痛 | |

これ等に対して病気・身体を多面的に診断し、以下の治療法を用いる

- | | |
|---------------|--------------|
| ・抗アレルギー剤 | ・丹羽式正體術 |
| 症状を抑える | 身体の歪みをとる |
| 漢方薬(体質改善) | 筋肉を柔軟にする |
| 胃腸の不調 | リンパの流れを改善 |
| 冷え・むくみの改善 | 自律神経のバランスを調整 |
| ・ビタミン・ミネラル療法 | ・温熱免疫療法 |
| 皮膚に栄養を与える | 冷え性の改善 |
| 皮膚の代謝を促す | 「良い汗」をかく |
| 強く美しい皮膚をつくる | 免疫機能改善 |
| ・スキンケア | ・音楽免疫療法 |
| 皮膚を保護し鍛える | クラシック音楽中心 |
| 天然で良質の保湿剤使用 | 免疫賦活剤 |
| 防腐剤無添加で安全性が高い | 免疫機能改善 |

スキンケアで注意すべき点

ステロイド使用している人は徐々に減らしてゆく。免疫抑制剤はガンになる恐れがある。20～30年悩んだ人で3ヶ月で治る。尚、皮膚が弱い人は治りにくい。

化粧品で防腐剤のはいつているものが多いので気をつけよう。

温泉療法は泉質により害になることもあるので要注意。

ヘアマニキュア・茶髪など髪のとんぱく質を変質させ、皮膚に悪影響を与える。ヘナにもいろいろあるので要注意。

糖尿病: 漢方、サプリメント、正体術、温熱療法を用いる。

腰まわりの体脂肪を下げるのが大切。女性が子供を産めない原因ともなる。

歩くことが第一、首に力が入るので物を持って歩かない。手を振って歩く。

一日一万歩以上。一週間に2時間以上を目安。又、野菜を多く摂ること。

筋肉骨格系疾患: 正体(整体ではない)温熱、サプリメント等療法を用いる。

体の奥の筋肉を伸ばすよりもケンを伸ばすことが必要。

症例別鑑別を行い、正体と温熱並びにサプリーを用いる。

うつ病: 正体 音楽 漢方 サプリメント 花療法(花の波動と香りが効く)

脳の血流が悪いと首の動脈が萎縮し、うつに大きな影響を与える。

脳にはビタミンCで良質なものを多量投与する。

婦人科系疾患: 生体 温熱 漢方療法等を用いる。

サプリメント ミネラル ザクロ 等が良い。

4 その他 留意点

ビタミンCの効用

ビタミン類の基本であり、コラーゲンを作る基でもある。

ビタミンCとビタミンAはマクロファージを活性化させ、風邪ウイルスに対抗する。

良質な水

良い水は水粒子が小さい程良く、体に吸収される。

現代人は添加物を一日12g食べている。良い汗をかいてそれ等を体外へ排水することが必要。

妊婦は羊水をきれいにしておくことが大切。アトピーの子供ができる原因。

貧血は鉄分不足が原因ではない。亜鉛や他のミネラルが不足している。ペットボトルの水や沸かした水にはミネラルが少ない。海洋深層水はミネラル分が多いが、Naも多く体のむくむ原因ともなる。下剤としての効果あり、通じは良くなる。

いずれにしても体に効くからといって永く続けると時には害になることも多い。時々、医師にチェックしてもらおうと良い。